

イルミネーション



12月から1月にかけてセンター内で、イルミネーションを展示しています。クリスマスとお正月のデザインを楽しめます。



八重桜を見る会

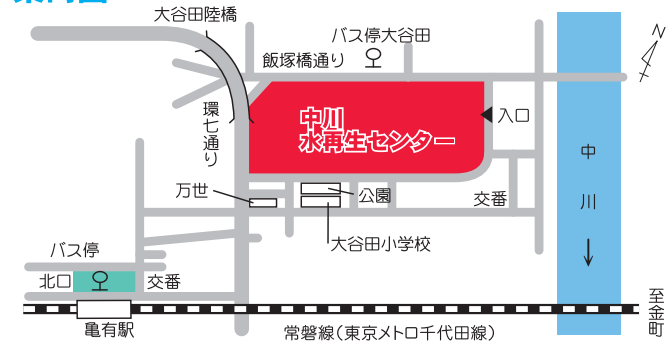
毎年4月中旬に満開となる八重桜を見る会を実施しています。開催日時は当局のホームページでお知らせします。

夏休み子どもまつり



毎年、7月から8月の夏休み期間中に「夏休み子どもまつり」を開催しています。たくさんの催し物がありますので、ぜひお越しください。

案内図



- 所在地 〒120-0002 東京都足立区中川5-1-1
☎ 03-3606-2812
- 交通 JR常磐線(東京メトロ千代田線)「亀有」駅北口から徒歩20分
同駅から東武バス「葛飾車庫」行、「西水元循環」行または「水元総合スポーツセンター」行、「大谷田」下車徒歩5分



下水道の役割や水環境の大切さを、楽しみながら学べる体験型施設です。

- 開館時間/9:30~16:30 (入館は16:00まで)
- 入館無料
- 休館日/月曜日(月曜日が祝祭日の場合は開館し、その翌日休館)、年末年始
※夏休み期間は無休
- 所在地/江東区有明2-3-5 有明水再生センター5階
- ☎ 03-5564-2458
- ホームページ <https://www.nijinogesuidoukan.jp/>

下水道局との関係をお互に 悪質業者にご注意を!

下水道局では、宅地内排水設備の修理や清掃などを業者に依頼することはありません。



国指定重要文化財 大正時代の趣ある赤レンガ風の建造物や地下施設を見学できます
国三河島汚水処分場唧筒(ポンプ)場施設

●東京アメッシュ

都内とその周辺地域で降っている雨をレーダーと地上雨量計で観測し、リアルタイムに表示するシステムです。



●下水道アドベンチャー

下水道についてのクイズに正解して、下水道マスターを目指そう。



●下水道局ホームページ

<https://www.gesui.metro.tokyo.lg.jp/>



地域で育む水環境

中川水再生センター



中川水再生センターの処理区域は、足立区の大部分と葛飾区の一部(ほぼ常磐線以北)で、面積は4,442haです。また、この区域は河川に囲まれているため、中川水再生センターが稼働するまでは浸水の起きやすい地域でした。この区域の大部分は、雨水と汚水を別々の下水道管で集め、雨水は川へ放流し、汚水は水再生センターで処理する「分流式下水道」になっています。

処理した水は中川に放流しています。また、その一部をろ過してセンター内で機械の洗浄・冷却やトイレ用水などに使用しています。発生した污泥は、葛西水再生センターへ圧送し、処理しています。

●処理区域



(令和8年4月現在)

- 運転開始 昭和59年4月
- 敷地面積 311,240m²
- 処理能力 225,000m³/日

●水処理施設

沈砂池	10池
第一沈殿池	6池
反応槽	12槽
第二沈殿池	6池

●流入・放流水質

水再生センターからの放流水は、「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」の水質基準を十分に満たし、魚がすめる水質です。単位: mg/L

項目	流入水	放流水	条例による放流水の水質基準
BOD	180	3	25以下
COD	89	7	—
全窒素	31.6	4.4	30以下
全りん	3.2	0.3	3以下

令和6年度 24時間試験平均値

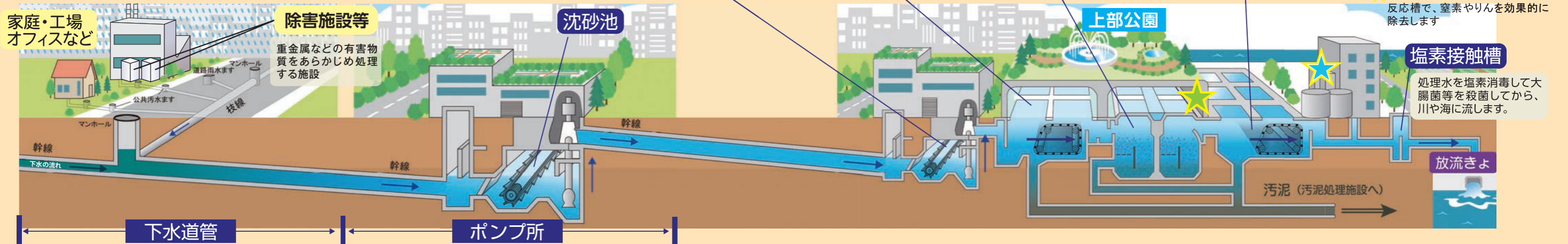
※BOD、CODは、数値が高いほど水が汚れていることを示します。BODは、微生物が有機物を分解するのに使う酸素量、CODは酸化剤で有機物を分解して消費する酸素量で測ります。放流水の水質基準は、河川はBOD、海域はCODにより定められています。全窒素、全りんは、赤潮の発生などと深くかかっています。



下水道のしくみ

下水道は、主に3つの施設でできています。

- 下水を集めて流す**下水道管**
 - 下水道管が深くなりすぎないように途中で下水をくみ上げる**ポンプ所**
 - 下水を処理してきれいな水によみがえらせる**水再生センター**
- どの施設も正しく働くように日々点検、清掃、補修などを行っています。



下水の高度処理
さらにきれいにするために、次のような施設の導入を進めています。

- ★ 砂ろ過法・生物膜ろ過法
第二沈殿池でとりにきれいな小さな汚れを取り除きます。
- ★ A₂O法
反応槽で、窒素やりんを効果的に除去します



下水道の役割

汚水の処理による生活環境の改善
家庭や工場から排出された汚水を処理して、快適な生活環境を確保します。

雨水の排除による浸水の防除

道路や宅地に降った雨水を速やかに排除して、浸水から街を守ります。

川や海などの水質保全

下水を処理し、きれいにした水を川や海に放流することにより、その水質を改善し、保全します。

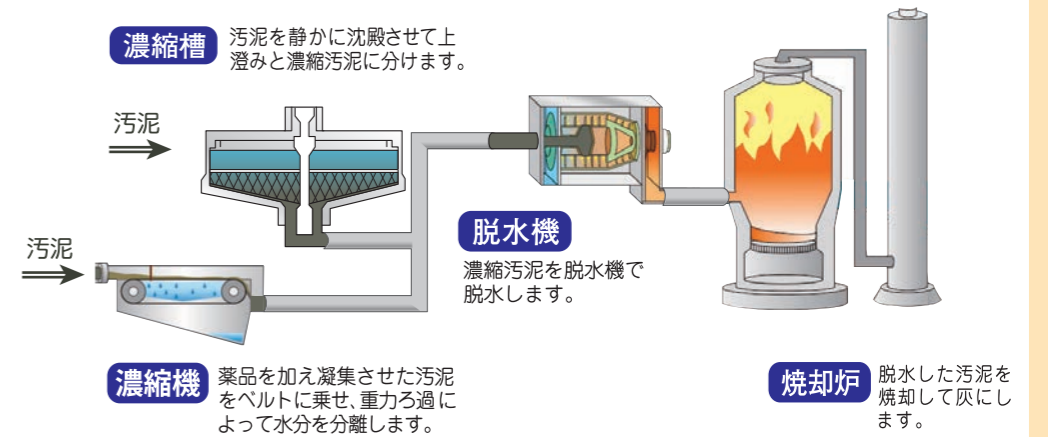
新たな役割

再生水や下水熱など下水道が持つ資源・エネルギーの有効利用や下水道施設の上部空間の利用などにより、良好な都市環境を創出するという新しい役割を担っています。

汚泥処理施設

汚泥の水分を取り除き、焼却しています。

※ 汚泥処理施設のない水再生センターは、汚泥処理施設のある水再生センターに汚泥を送って処理します。



施設平面図



中川水再生センターの特色 光ファイバー通信網によるポンプ所の運転管理

中川水再生センターから約4km離れている東金町ポンプ所、約8km離れている熊の木ポンプ所及び約2.5km離れている加平ポンプ所を、下水道管の中を通した光ファイバー通信網を使って遠方より監視制御し運転管理しています。地域に降った雨を集め、ごみや土砂を取り除いた後、ポンプで汲み上げて河川に放流します。

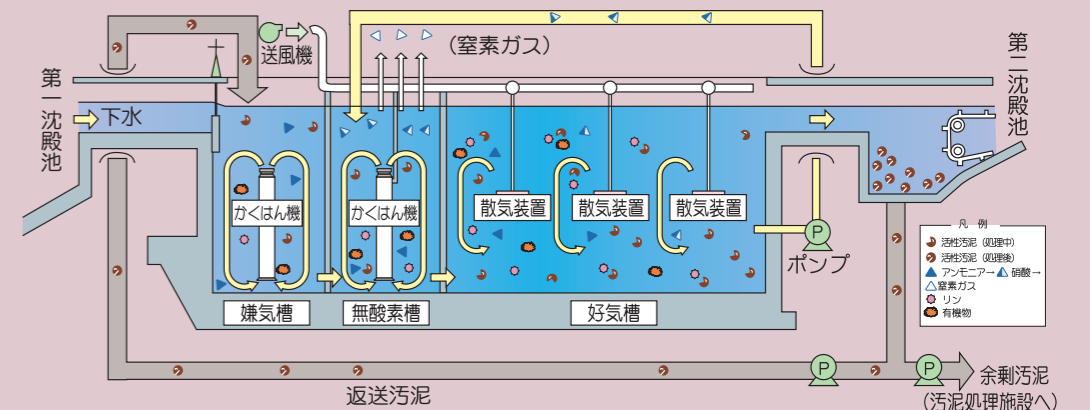


▲東金町ポンプ所



高度処理施設(A₂O法)の運転

今までの下水処理では取り除きにくい窒素やりんが原因で、東京湾では依然として富栄養化による赤潮が発生しています。このため、平成6年度から一部施設でA₂O法(嫌気-無酸素-好気法)という高度処理を行って、より多くの窒素やりんを除去しています。



嫌気槽

下水と活性汚泥を、空気を吹き込まずに混ぜ合わせます。活性汚泥中の微生物は酸素がないので、体内に貯えたエネルギー物質を分解して呼吸をします。その際、りんを水中に放出します。

無酸素槽

嫌気槽から出てきた水に、好気槽から水を戻します。微生物は窒素に結び付いている酸素を奪って呼吸します。酸素を取られた窒素はガスとなって放出されます。

好気槽

空気を十分に吹き込むことで、有機物は微生物により分解され、窒素は酸素と結びつきます。また、嫌気槽で放出された量以上のりんが微生物に吸収されます。